

北上市PTA連合会報

第45号

一発行日一
令和6年
(2024年)
3月10日

発行：北上市PTA連合会

企画編集：広報委員会

印刷：北上アビリティセンター



今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い様々なPTA活動が通常開催に戻りました。今回の北上市PTA連合会の会報は、「after コロナの中でのPTA活動の在り方を探る」をテーマに各学校の活動内容を紹介します。新型コロナウイルス前の通常開催に戻ったと言っても、まずは記憶を戻すところから始まり、記憶を戻すにも当時を知る方がおらず過去の資料を頼りに実施したり、当時を知る方を探して聞く等、本当に大変だったと思います。今後の活動について皆様の参考になれば幸いです。

目次	□特集 「after コロナの中でのPTA活動の在り方を探る」	□周年行事 更木小学校	P 6
	□PTA紹介 黒沢尻北小学校 和賀東中学校	□母親委員会の活動	P 7
	□学校紹介 東陵中学校 北上北中学校	□研修委員会の活動	P 7
	□学校紹介 東桜小学校 南小学校	□研究大会参加報告	P 7
	□学校紹介 笠松小学校	□市PTA連会長あいさつ・編集後記	P 8



特集**afterコロナの中でのPTA活動の在り方を探る**

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日に法律上の5類感染症に移行されたのは皆さんご存じのことと思います。

コロナ禍の間、PTA活動も多くが制約を受け、時には活動を停止したり、運営方法の見直しを余儀なくされながらも、どの学校も悩みながら活動されてきたと思います。今年度に入り、感染拡大には引き続き注意しながらも、以前のような形で学校行事やPTA活動が行われるようになったことは、子どもたちの学びにとっても喜ばしいことだと思います。

とは言え、新型コロナウイルス感染症の脅威が無くなったわけではなく、私たちは子どもたちの健康管理に引き続き気を配りながら活動を展開していかなければなりません。

そこで、今回の特集では、コロナ禍の経験からどのような形で今後のPTA活動を展開していけば良いか、各校の取り組みを共有する中で何らかの気づきを得ていただけたらとの思いから、「afterコロナの中でのPTA活動の在り方を探る」をテーマとさせていただきました。

巻頭にあたり、まずは私たちの活動の拠点となる学校において、5類引き下げ以降どのような対応が求められているのか、文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」の内容についてご紹介したいと思います。

● **学校における新型コロナウイルス感染症対策の考え方について**

マニュアルには「学校教育活動の継続を前提とした上で感染拡大を防止していくため、学校において、時々の感染状況に応じた感染症対策を講じていくことが重要」と記されています。

● **平時・感染流行時の感染症対策について**

平時においては、これまでの感染症対策のうち学校教育活動との両立が可能な対策は継続が有効としています。一方、感染流行時においては、感染リスクが比較的高い学習活動を実施する際には近距離・対面・大声での発声や会話を控える、身体的距離を確保する等の対策を一時的に講じることが考えられています。

※詳しい内容は右のQRコードからご覧いただけます。



マニュアルからは、今後は一律的な対応ではなく、感染拡大の度合いや地域の実情に即した対応を講じていく必要があること、感染防止には十分に配慮しつつも子どもたちの学びの機会を確保しようとしていることが分かります。

● **持続可能なPTA活動に向けて**

一方、コロナの影響により、これまでの活動を見直す機会にもなったのではないのでしょうか。

実際、これまで学校に集まって行われていた活動を、ICTをうまく使うことで方法を工夫したり、大人数になってしまうものは時間帯を分け、密集を避けるといった取り組みは各学校でも行われたことと思います。

そうした工夫の中には、より多くのご家庭に関わってもらいやすい、持続可能なPTA活動の在り方へと繋がるヒントが隠されているのかもしれませんが。今回の特集がそうした気づき・学びが広がる機会にもなれば幸いです。

PTA紹介

コロナ禍後初のいちい祭り開催へ 黒沢尻北小学校PTA



黒沢尻北小学校では、長きにわたりバザーなどからの活動が形を変え、児童たちの楽しめるゲームや飲食を提供する「いちい祭り」というPTA活動を行ってまいりました。

この活動はPTAの会員が主体となり教員の皆様にもお手伝いいただき

ながら児童、父兄、教員、地域の人たちとのつながりを作り出す活動になっていました。しかし、コロナ禍で中止が続き、本年は4年ぶりに開催することができました。準備から祭り当日、後片付けまで、教員、父兄の皆様には大変な思い



をさせましたが、これほど日頃より様々な方に児童は支えられていると感じられる機会がなかったことを実感する事が出来ました。

この活動が中学、高校、大人になっても楽しかったと子どもたちの記憶に少しでも残ってくれることを願っています。

(黒沢尻北小学校PTA会長 山内 雄太)



アフターコロナのPTA活動について 和賀東中学校PTA

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に指定されたことにより、本校のPTA活動もコロナ禍前の活気が戻りつつあります。

思えば、感染が拡大し続けていた令和2年1月頃から令和4年3月頃まで、私たちはあまりにも無力で、様々な活動の実施に際し「中止、延期、自粛、制限を付す」といった判断(決断)を迫られる日々



が続いておりました。令和3年度に開催した創立五十周年記念事業も、当初の計画から大きく変更したものとなってしまったことは非常に残念でありました。しかしながら、令和4年度を迎えると、それまでの経験を活かし、実施をあきらめるのではなく、その時々での状況に対応し、どうすれば安全に実施できるのかを考えながら様々な方策を採るようになりました。その象徴的な活動として、本校PTAで企画した情報モラル講演会があげられます。北上市から貸与されている1人一台端末(タブレット)を活用したりリモート形式で開催し、本校の生徒、保護者はもちろん、コミュニティスクール活動の一環として学区内にある小学校、幼稚園、保育園の保護者にも視聴を呼びかけ、多くの方々に視聴していただいたことは、今後の新た

なPTA活動に向けた大きな成果となりました。

本年度は、コロナ禍時の活動を通して得た経験を基にPTA会則を現代の社会情勢や活動の実情に合わせたものへと改訂し、会議のあり方(開催方法や非常時の決議方法等)や役員及び各委員長の選出基準と任務を見直し、それぞれの役職の負担を軽減したことによる効率的かつ持続可能な新たなPTA活動への転換期と位置付け活動しております。

次年度以降は、コミュニティスクール活動の充実や部活動の地域移行化への対応を模索するなど、地域との関わり方を改めて見直す時期になろうかと思えます。

(和賀東中学校PTA会長 高橋 憲一)



afterコロナの中でのPTA活動の在り方を探る 東陵中学校PTA

東陵中PTA全体としては、例年通り文化祭に向け10月に環境整備作業（親子で校舎内の窓ふき作業）を実施しました。

また、コロナ禍で見合わせていた学年行事についても、生徒やPTA会員の実施希望が多く、今年度は全学年実施しました。学年毎では、1学年は7月に稲瀬のいこいの森でバーベキューを行いました。



多くの参加があり盛大なバーベキューになりました。会場がキャンプ場ということで、食べ終わった後は、山で走り回ったり、キャッチボールをしたり、虫取りをしたりと、夏の思い出作りになりました。

2学年は、10月にフライングディスク協会の方々のご協力、レクを楽しみました。親子でペアを組み、的あてゲームをしたり、3ペアでパターゴルフのように校庭の4コースを回ったりしました。親子でコミュニケーションを取りながら楽しく体を動かすことができました。いたるところで

歓声があがっていました。

3学年は、7月に中学校の校舎へ宿泊しました。夕食は、グループごとに生徒が作り、参加した家族、保護者にふるまいました。その後、スイカ割り、きもだめし、花火、ゲーム大会、映画鑑賞、おしゃべり・・・と盛りだくさんの内容でした。保護者のサポートのお陰で、生徒たちは大いにレクを楽しみました。

この様に、コロナ禍前では当たり前であったPTA活動が、末永く当たり前の活動になるよう心から願うばかりです。

(東陵中学校PTA会長 島津 秀太郎)



afterコロナの中でのPTA活動の在り方を探る 北上北中学校PTA

新型コロナウイルスが流行し始めて、約4年となりました。今年の5月には第2類から第5類へ引き下げられることに伴い学校行事、部活動及びPTA活動が少しずつではありますが再開し始めました。

北上北中学校では新型コロナウイルスが流行する前から北上・みちのく芸能まつりの市民パレードに参加してきました。去年3年ぶりの開催となり学校の先生方をはじめ、PTAの協力を得ながら準備をしていましたが、急にコロナウイルスが流行し始め会議の結果市民パレードは出ないということにしました。だが今年は、コロナウイルスが第5類になり制限があまりないということで参加を決意しました。



まず初めに参加を募りました。今年は去年市民パレードに出られなかった卒業生も参加して貰おうとしました。そして在校生38名、卒業生14名が参加してくれました。

暑い中ではありましたが、体育館に集まり踊り練習を3日間やりました。コロナのことも心配しましたが子どもたちはきちんとルールを守りながらやっているのを見て感心しました。



市民パレード当日は、きちんと距離を取りながら行動をしました。パレードのほうは子どもたちがとても楽しく、笑顔で踊っていました。マスクを取ってみんなの笑顔を見るのは久しぶりだなと感じました。結果としては若さと一体感があり学生の部で最優秀賞を頂きました。参加できとてもよかったですと思いました。

まだまだPTA活動は探りながらではありますが学校とPTAで話し合いを持ちながら進めていきたいと思っています。子どもたちの笑顔のために。

(北上北中学校PTA会長 吉田 祥次)

学校紹介

『学び咲く 笑顔咲く 元気咲く 未来を拓く東桜の子』 東桜小学校PTA

今年度、北上市東部地区の4つの小学校が統合し、新たに児童数192名の【北上市立東桜小学校】が開校いたしました。

豊かな自然と歴史的遺産に恵まれた環境のもと、新築の素晴らしい校舎で、『学び咲く 笑顔咲く 元気咲く 未来を拓く東桜の子』を学校教育目標



に掲げ、先生達が模索・試行錯誤しながら力を合わせて新しい学校を着実に具現化してくれています。

児童数が急に増え、子ども達のメンタル等の心配もありましたが、先生達や地域の皆さまのお力添えもあり、大きな問題も無くみんな元気に学校生活をおくる事ができています。

5月には、第1回の大運動会を開催、参加者全員がソワソワ・わくわくしながら、手探りの運動会、3・4・5・6年生の『東桜ソーラン』の大演舞、このすばらしい演舞が、東桜小学校の伝統となっていくことでしょう。

東桜小学校PTAは生まれたての新しいPTAですので、これを機に保護者・教職員が活動しやすい、前例にとらわれない新しいタイプのPTA



を目標に活動し、まだまだスタートダッシュをしている真っ最中と言う状況で、すべてが手探りの中、みんなで知恵を出し合いながら、少しずつ形が見えてきているところです。

生まれたばかりの東桜小学校、東桜小学校PTAは学区内各地区の歴史や伝統、特色を学び、取り入れながら新たな伝統を築き上げてくれると思います。

(東桜小学校PTA会長 多田 智憲)



南小学校学校紹介

南小学校の紹介は2つございます。

まずは新型コロナウイルスが5類に引き下げられ、多少の気遣いはありつつも開催できた運動会です。ここ数年は入場



に制限がありました。私たちが子どものころには、運動会に入場制限がかかるなんて思いもしませんでした。子どもたちは両親や祖父母に見てもらえて、本当に楽しそうに、そして真剣に競技をしていました。今年の運動会開催は、当たり前は当たり前ではないと感じた行事のひとつです。

もうひとつは、PTA地区委員が中心になって毎年開催している地区懇談会です。以前までは学校からの要望や地域の困りごとを聞くという形で開催をしていました。昨年からは、先生方にファシリテーターをしていただいて、全体テーマに沿って5～6人のグループで話し合うかたちをとっています。学校の先生、保護者、地区住民がそれぞ

南小学校PTA

れのグループで話し合い、模造紙にまとめ、最後はグループごとに発表という流れです。

南小学校学区は11区に分かれています。地区によって抱えている課題が微妙に違ってきます。住宅団地、工業団地、田園地帯というそれぞれの環境で、降雪時の通学事情、公園や友達の家での遊び方などに違いがあり、私自身もいろいろと知ることができました。コロナ禍のため外で遊ぶことも減っているようで、子どもたちにはもっと外に出て遊んでほしいという気持ちは懇談会に参加していただいたみなさんが思っていることでした。

今後は、保護者を含めた地域住民の知恵や考え方を子どもたちに伝える活動を先生方と一緒に企



画して、家での遊びだけではなく外に出かけるきっかけ作りができればと思います。活動をしていきます。

(南小学校PTA会長 馬場 一輝)

コロナと新校舎への引っ越しを乗り越えて 笠松小学校PTA

私たちの笠松小学校は昨年度から、豎川目グラウンド跡地に建てた新しい校舎へ引っ越ししました。児童も保護者も新しい校舎となり、とても喜んでおります。又、地域の方々にも新校舎を披露し、高評価を得られていると感じています。



笠松小学校の伝統のひとつとして、「床みがき」があります。これからもこの伝統を継続していき綺麗な校舎を維持できたらよいと思います。

近年は新型コロナウイルスの影響や仮設校舎での生活のためPTA行事が中止や縮小となっておりますが、新校舎への移転を機に様々な行事も復活しております。復活した行事に、ロードレース大会があります。休み時間でも練習をしている児童もおり、大会当日は地域の皆さんの応援もあり、練習よりタイムを縮めた児童もいました。また、新校舎近くの田んぼで、5年生が稲作活動を行いました。学校の近くに田んぼがあるため、年間を通して観察や体験

を行うことができます。地域の方々のご協力のおかげで、昨年も今年も豊作となりました。

コロナ禍で縮小開催をしておりました運動会も、徐々にですが種目を増やし、グラウンドも以前の倍以上となり、グラウンドいっぱい使い競技する事ができました。広いグラウンドを使用した新しい活動が出来ないか考えてもよいのではないかと思います。



笠松小は全児童82名と小規模の小学校となります。一学年の人数は少ないので横のつながりはもちろん強いです。縦割り班活動により別学年とのかかわりを持つことで、縦のつながりも強いのがこの笠松小学校の良さでもあります。PTA活動において、親も地域の中で教えたり教えられたりしながら取り組んでいます。今後も活動を通して縦のつながりもよくしたPTA活動にしていきたいと思っております。(笠松小学校PTA会長 菊池 聡)

周年行事

祝・更木小学校創立150周年 更木小学校PTA



北上市立更木小学校が明治6年に創立し、今年で150周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。この永い歴史と伝統は、歴代の校長先生をはじめ諸先生方、PTA、地域の多くの関係する皆さまのお力によって積み上げられてきたからだと思います。更木小学校は、運動会、更木神楽や田植え、稲刈り、スキー教室、インラインスケート教室など、PTA

や地域の方々のお力を借り、地域の特色を活かしながら活動が行われています。更木小学校は小さな学校ですが、地域という大きな家族に見守られ、子どもたちは、自ら学び考え、明るく思いやりのある、健康でたくましい子どもに成長しています。



現代はインターネットなどの通信技術が発展し、世界中の人とつながることができ、世界中の情報を知ることができる便利な時代になりました。そ

んな便利な時代ですが、更木小学校は昔から地域との繋がりは深く、その繋がりを大切にしてきました。地域と学校、人と人との繋がりをこれから先も大切に、学校、保護者、地域の皆さまと共に協力し、未来へ羽ばたける子どもたちに育ってほしいと思っております。これからもご協力のほど宜しくお願い致します。



最後になりましたが、150周年記念事業を推進するにあたり、関係者の皆さまには多大なるご支援、ご協力をいただきましたこと心よりお礼を申し上げます。(更木小学校PTA会長 藤村 洋行)



令和5年度 北上市PTA連合会 母親委員会の活動



令和5年度の母親委員会研修会を10月20日(金)に岩手県立西和賀高校と昨年完成した西和賀町総合給食センターへ行ってきました。

初めに訪問をした西和賀高校では、最新式のプロジェクターが配備され、教育委員会と町の支援のもとでICT教育の整備が進んでおり、授業参観では生徒と先生がしっかりとコミュニケーションをとりながら学習をしている様子を見ることができました。見学後、助川校長先生からの「令和の時代は時代の流れが早く、全員が、一人ひとり前を向き主体的に生きることが大切」「今までの一定のイメージの基でついていけば何とかなる時代は終わった」という話が心に残り、保護者も子どもたちと一緒に、時代と共に教育環境の変化を知り、協働的に行動することの大事さを感じてきました。次に訪問した西和賀総合給食センターは、食育



指導や施設見学に対応するため研修室から調理室を見ることができるよう設計されており、町内小中4校に向けて300食の調理と配膳の様子や、将来的に隣接しているさわうち病院の病院食の提供も考えているとお話を聞きました。そしてこの日は月に1度の西和賀給食の日との事で、地元の湯田牛乳をはじめ、特産のわらびに源助とうふ、ブラウンスイス牛のキーマカレーを試食し、牛を育てている生産者の方から大事に育てている様子や、子どもたちに安心安全な給食の提供を



したい気持ちがあふれていました。教育と食を通して町全体で子どもたちの成長を見守り支える姿、来年度、西和賀町にて行われる岩手県PTA家庭教育セミナーに多くの会員に来てほしいとの思いを感じながら、皆さんの協力のもとでよい経験をする事ができました。ありがとうございました。

(母親委員長 宮原 敦子)

令和5年度 北上市PTA連合会 研修委員会の活動



令和5年度北上市PTA連合会研修大会 11月3日

「学校での突然死を防ぐ」をテーマに、立正堂医院院長及川浩平氏を講師に迎え、講演会をホテルシティプラザ北上にて開催しました。市内PTA関係者約90名が参加。

また、研修大会終了後は、4年ぶりに校長会、副校長会、北上市PTA連合会合同の交流会も行い、久しぶりに相互の意見交換も出来ました。

講演内容は「①正しい心肺蘇生法」、「②AEDについて」、「③学校での突然死」の3つで、大事なことは、訓練用人形とAED練習機を使ってトレーニングするのが必要という説明がありました。また、学校での突然死を防ぐためには、予防も大切で、生徒児童の体調管理、病歴の把握や、薬の服用について確認しておくことも有効であるとの話がありました。



心肺蘇生法の普及啓発に20年以上関わっている講師の及川浩平先生から、「いざという時は、ためらわず、一秒でも早く心臓マッサージをしながら、なるべく早くAEDを使用することが大事」との言葉がとても印象的でした。

「何もできないことはない。特別な人じゃなくても、誰にだって出来ることはある。」いざという時に、適切な応急手当をするために、子どもたちの命を預かる学校の教職員と保護者が協力して、今後も継続的に学びが必要だと感じました。

参加者は、命に係わる内容を真剣に聞き、命の大切さについて考える良い機会であったと思いました。これをきっかけに各学校にて、心肺蘇生法などの救命講習を生徒・児童・教職員・保護者が学ぶ機会が増えることを期待します。

(研修委員会委員長 黒沢尻東小学校PTA会長 渋川 誠親)



研究大会参加の報告 第71回日本PTA全国研究大会広島大会 8月25・26日

「PTA自身が学びの革新を！」をスローガンに、全国から約7,000名のPTA関係者が参加し開催されました。(岩手県15名、北上市2名参加。)

1日目は広島県内8か所で分科会、2日目は全大会が行われました。



分科会は「地域の連携」をテーマに、基調講演と実践発表。

「PTA活動は、誰かがやってくれるのではない。種火は自分たち。いこっている(広島弁

で燃えている)人の周りは、いずれ盛り上がっていく」との言葉がとても印象的でした。

全大会は「脳科学」をテーマに講演。感性研究からくりだされる男女脳の可笑しくも哀しいすれ違いについて、最後まで興味深く聞くことが出来ました。

新しい時代を生きる子どもたちの成長に繋がる大きなヒントをいただくことが出来た素晴らしい研究大会でした。

(北上市PTA連合会副会長 渋川 誠親)



会長あいさつ



北上市PTA連合会

会長 小川 さつき
(上野中学校PTA会長)

令和5年度北上市PTA連合会会長を務めさせていただきます。上野中学校PTA会長の小川さつきと申します。日頃より、PTA会員の皆様にはPTA活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて今年度は、各学校のPTA活動もコロナ禍前のような活動に戻りつつあります。その中で、以前のような活動をすることに大変な思いを感じてられる方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。ここ数年、子どもたちは日常の何気ない時間を奪われ、とても寂しい思いをしています。子どもたちだけではなく、私たち大人も活動制限の中で、今まで何気なく出来ていた活動がどれだけ「ありがたい」ことなのかを実感しています。それと同時に「人と人とのつながりの大切さ」や「活動継承の大切さ」を感じています。

これからは、テレワークやオンライン授業など急速にIT化が進んでいき、人と関わらなくてもいい時代が予想されますが、やはり直接会ってコミュニケーションを取ることも大切です。子どもたちに勉強や遊びを実体験させてあげたいという

気持ちは、いつの時代も共通する私たち親の思いではないでしょうか。そのような機会を作ってあげるためには、PTA活動が重要ではないかと思えます。子どもたちの実体験こそが、人と人のつながりの大切さを学ぶための大切な機会を担っており、オンラインでは学べないことが沢山あります。

時代の変化に戸惑い、大人も子どもも大変だとマイナスなイメージを持つのではなく、「大変=大きく変わるチャンスあり」とプラスに捉え、何事にも前向きに考えることができます。PTA活動は、無理のない範囲、できる範囲の活動です。皆さまのお力を頂きながら、子どもたちの未来のためにできる活動を進めていくことが出来れば幸いです。

最後に会員皆さまが気持ちよく、充実感に満ちた活動になるように心がけてまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い致します。

令和5年度北上市PTA連合会役員

<会長>	小川さつき (上野中学校PTA会長)
<副会長>	渋川 誠親 (黒沢尻東小学校PTA会長)
	橋場 渉 (鬼柳小学校PTA会長)
	吉田 祥次 (北上北中学校PTA会長)
	高橋 俊樹 (和賀西小学校PTA会長)
	清水 幸一 (和賀東小学校PTA会長)
<母親委員長>	宮原 敦子 (北上北中学校PTA)
<顧問>	石積 拓也 (飯豊小学校PTA会長)
<事務局長>	澤田 真一 (上野中学校副校長)
<事務局補佐>	及川登志彦 (黒沢尻北小学校副校長)
<事務局会計>	及川登志彦 (黒沢尻北小学校副校長)

令和5年度北上市PTA連合会広報委員会

<委員長>	橋場 渉 (鬼柳小学校PTA会長)
<副委員長>	高橋 俊樹 (和賀西小学校PTA会長)
<委員>	高橋 卓也 (飯豊小学校PTA副会長)
	小原 英樹 (いわさき小学校PTA会長)
	多田 智恵 (東桜小学校PTA会長)
	菅原 絵美 (二子小学校PTA会長)
	及川 慎也 (江釣子中学校PTA会長)
	山内 雄太 (黒沢尻北小学校PTA会長)
	高橋 憲一 (和賀東中学校PTA会長)
	佐々木有希 (和賀西中学校PTA会長)
<事務局>	小原 英己 (鬼柳小学校副校長)
	菊池 仁 (和賀西小学校副校長)

編集後記

今年度広報委員長を務めさせていただきました橋場と申します。こうして会報45号を無事に発行できたことに対し、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下がり、以前のような形で学校活動やPTA活動が戻りつつありますが、皆様はどのようにお感じでしょうか？私は子どもたちがマスクを外す時間が増え、一人ひとりの表情がよく見えるようになったことをとても嬉しく感じています。

一方で、子どもたちの立場になって考えてみると、コロナ禍の生活様式を当たり前のもので学校生活を過ごしてきた子どもにとっては、ひょっとしたらアフターコロナの学校生活に戸惑っていることもあるのではないかと心配になります。感染状況に応じ変化する学びの環境に子どもたちが適応できるよう、私たちも引き続き学校の先生方と手を携え、見守っていかねばと考えています。